



kaminorippo.org

付録5g: 仕事と安息日 — 現実世界の課題への対処

このページは、第4の戒め「安息日」に関するシリーズの一部です:

1. [付録5a: 安息日と教会に行く日の違い](#)
2. [付録5b: 安息日を現代において守る方法](#)
3. [付録5c: 日常生活における安息日の原則の適用](#)
4. [付録5d: 安息日での食事 — 実践的な指針](#)
5. [付録5e: 安息日の交通手段](#)
6. [付録5f: 安息日におけるテクノロジーと娯楽](#)
7. [付録5g: 仕事と安息日 — 現実世界の課題への対処](#) (現在のページ)

なぜ仕事最大の課題なのか

多くの信者にとって、安息日を守る上で最大の障害は雇用です。食事、交通、テクノロジーは準備によって調整できますが、仕事の約束は人の生計とアイデンティティの核心に触れます。古代イスラエルでは国全体が安息日を守っていたため、これはほとんど問題になりませんでした。商業、裁判所、市場はデフォルトで閉じられていました。共同体全体での安息日違反は珍しく、しばしば国全体の不従順や追放の時期に結びついていました(ネヘミヤ13:15-22参照)。しかし今日、私たちの多くは第七日が通常の労働日となっている社会に住んでおり、この戒めを実践することが最も困難になっています。

原則から実践へ

このシリーズ全体を通して、安息日の戒めは神の聖く永遠の律法の一部であり、孤立した規則ではないことを強調してきました。ここでも同じ準備、聖性、必要性の原則が当てはまりますが、利害はさらに大きくなります。安息日を守る決断は、収入、キャリア、ビジネスモデルに影響するかもしれません。しかし聖書は一貫して、安息日を守ることを忠誠と神の備えへの信頼のテストとして示しています—最終的な忠誠がどこにあるかを示す毎週の機会なのです。

よくある4つの仕事の状況

この記事では、安息日との衝突が生じる主なカテゴリーを4つ取り上げます：

1. 通常の雇用 — 小売、製造、サービス業など、他人の下で働く場合。
2. 自営業 — 自分の店舗や在宅ビジネスを営む場合。
3. 救急・医療従事者 — 警察、消防士、医師、看護師、介護者など。
4. 軍務 — 徴兵と職業軍人の両方。

どの状況でも、識別、準備、勇気が求められますが、聖書の土台は同じです。「六日のあいだあなたは働いてあなたのすべての仕事をしなければならない。しかし七日目はあなたの神、主の安息日である」(出エジプト記20:9-10)。

通常の雇用

小売、製造、サービス業など通常の雇用にある信者にとって、最大の課題は勤務スケジュールが通常他人によって決められていることです。古代イスラエルでは国全体が安息日を守っていたため、この問題はほとんどありませんでしたが、現代経済では土曜日がピーク労働日であることが多いのです。安息日遵守者の第一歩は、自分の信念を早めに示し、可能な限り勤務週を安息日に合わせることです。

新しい仕事を探している場合は、履歴書ではなく面接の段階で安息日の遵守について伝えましょう。こうすることで、説明する前にふり落とされるのを防ぎ、自分が他の日に柔軟に働けることを強調する機会も得られます。多くの雇用主は、土曜日を休みにする代わりに日曜日やあまり好まれないシフトで働いてくれる従業員を評価します。すでに雇用されている場合は、安息日の時間を免除してもらうよう丁寧にお願いし、スケジュールを調整したり、休日勤務や他の日に労働時間を補うことを申し出ましょう。

雇用主には、誠実さと謙虚さ、しかし同時に揺るがぬ姿勢で接しましょう。安息日は単なる好みではなく戒めです。曖昧な要望よりも、明確で敬意ある要望の方が雇用主は対応しやすくなります。週の間の準備は自分の責任であり、プロジェクトを前倒しで終え、職場を整え、安息日中に同僚に不要な負担をかけないようにしてください。誠実さと信頼性を示すことで、自分の主張を強め、安息日遵守がよりよい労働者を生むことを示せます。

もし雇用主がどうしてもスケジュール調整を拒む場合は、自分の選択肢を祈りながら考えましょう。ある安息日遵守者は、減給を受け入れたり部署を変えたり、さらにはキャリアを変更してまで神の戒めに従ってきました。こうした決断は難しいものですが、安息日は信仰の週ごとのテストとして設計されており、神の備えは、従うことによって失うものよりも大きいことを信頼することになります。

自営業

自営業—在宅ビジネス、フリーランスサービス、店舗経営—の場合、安息日のテストは違う形を取りますが同じくらい現実的です。雇用主が時間を決める代わりに、自分自身で決めることになるため、聖なる時間中は意識的に閉店・停止する必要があります。古代イスラエルでは、安息日に商売しようとする商人はネヘミヤに戒められました(ネヘミヤ13:15-22)。この原則は今日も変わりません。顧客が週末にサービスを期待していたとしても、神はあなたに第七日を聖別することを求めておられます。

ビジネスを始めようとしている場合は、それが安息日遵守にどう影響するかを慎重に考えましょう。ある業界は第七日の閉店が容易ですが、別の業界は週末の売上や納期に依存しています。自分や従業員が安息日を仕事から解放できるビジネスを選びましょう。ビジネスプランや顧客への案内に、最初から安息日閉店を組み込み、早めに期待値を設定して顧客があなたの境界を尊重するように訓練しましょう。

すでに安息日に営業している場合は、たとえ収益が減っても、聖なる日に閉店するための必要な変更を加えなければなりません。聖書は、安息日労働から利益を得ることは自ら働くのと同じように従順を損なうと警告しています。共同経営はこの問題を複雑にします。不信仰のパートナーが安息日に事業を運営していても、あなたはその労働から利益を得ていますが、神はこの取り決めを受け入れません。神を敬うためには、安息日労働に収入が依存する仕組みから身を引くべきです。

これらの決断は犠牲を伴いますが、強力な証しを生みます。顧客や同僚はあなたの誠実さと一貫性を目にするでしょう。安息日に事業を閉じることで、絶え間ない生産ではなく神の備えに究極の信頼を置いていることを行動で宣言するのです。

救急・医療従事者

救急や医療分野で働くことは安息日に自動的に許される、という誤解が広くあります。この考えは多くの場合、イエスが安息日に人々を癒された(マタイ12:9-13、マルコ3:1-5、ルカ13:10-17参照)という事実由来します。しかしよく見ると、イエスは「治療院」を運営するつもりで安息日に家を出たわけではありませんでした。彼の癒しは自発的な憐れみの行為であり、計画的な職業労働ではありませんでした。イエスがその癒しで報酬を得たことは一度もありません。このことは、安息日であっても真の必要にある人々を助けるべきことを教えています。第四の戒めを取り消したり、医療や緊急業務を恒久的な例外にしたりするものではありません。

現代では、安息日を守らない人々がこれらの役割を担うことがほとんどで、病院や救急サービスは主に安息日を守らない人々によって24時間運営されています。この豊富さは、神の子どもが安息日の労働を定期的に要求される職にあえて就く正当化を取り除きます。どんな職業も、たとえ人々を助けるものでも、神の第七日を休む命令に優先することはありません。神ご自身が聖性と休息を定義された以上、「人々に仕えることは神の律法を守ることよりも重要だ」と私たちは主張できません。

これは、安息日遵守者が安息日に決して命を救ったり苦しみを和らげたりしてはならないという意味ではありません。イエスが教えられたように、「安息日に良いことをするのは正しい」(マタイ12:12)のです。予期せぬ緊急事態—事故、病気の隣人、自宅での危機など—が起こった場合、いのちや健康を守るために行動すべきです。しかしこれは、毎週安息日に働くことを義務づけるキャリアポジションに就くこととはまったく異なります。誰も代わりにできる人がいないまれなケースで、一時的に重要なニーズを埋めることがあるかもしれません。

せんが、そのような状況は例外であり、通常にはすべきでなく、できればその時間に料金を請求しないようにすべきです。

導きの原則は、自発的な憐れみの行為と定期的な雇用とを区別することです。憐れみは安息日の精神と一致しますが、計画的で利益目的の労働はそれを損ないます。可能な限り、医療や緊急分野の安息日遵守者は、安息日を尊重するスケジュールを交渉し、この戒めを破らない役割やシフトを探し求め、その過程で神の備えを信頼すべきです。

軍務

軍務は、しばしば政府権限下での義務的勤務を伴うため、安息日遵守者に特有の課題をもたらします。聖書には、この緊張に直面した神の民の例が示されています。たとえばイスラエルの軍隊は、エリコの周りを七日間行進し、第七日に休まなかったことがわかります(ヨシュア6:1-5)。またネヘミヤは、安息日の聖性を守るために町の門に警備を配置したことを記しています(ネヘミヤ13:15-22)。これらの例は、国防や危機の時に義務が安息日に及ぶことがある一方で、それが個人的なキャリア選択ではなく共同体の存続に結びついた例外であったことを示しています。

徴兵の場合、環境は自発的ではありません。命令下に置かれ、スケジュールを選ぶ自由が極めて制限されます。この場合でも安息日遵守者は、安息日の勤務から外れるよう上官に丁寧にお願ひし、安息日が深く保持している信念であることを説明するべきです。たとえ要望が受け入れられなくても、その努力自体が神を敬うことであり、思わぬ好意につながる可能性があります。何よりも、謙虚な態度と一貫した証しを保ちましょう。

軍をキャリアとして考えている場合は、状況が異なります。キャリアポジションは他の職業と同じく個人的選択です。安息日を定期的に破ることが分かっている役割を受け入れることは、その日を聖なるものとする命令と両立しません。他の分野と同様に、安息日遵守が尊重される任務やポジションを探すことが導きの原則です。ある分野で安息日を守ることが不可能であれば、祈りつつ別のキャリアパスを検討し、神が他の方向に道を開かれることを信頼しましょう。

徴兵・志願の両方において重要なのは、どこにいても神を敬うことです。反抗せずに可能な限り安息日を守り、権威に敬意を示しつつ、自分の信念を静かに生きるのです。そうすることで、神の律法への忠誠が利便性に左右されず、信仰に根ざしていることを示せます。

結論: 安息日を生き方として生きる

この記事をもって安息日に関するシリーズを締めくくります。創造におけるその基礎から、食事、交通、テクノロジー、仕事における実践的表現に至るまで、私たちは第四の戒めが孤立した規則ではなく、神の永遠の律法に織り込まれた生きたリズムであることを見てきました。安息日を守るとは、単に特定の行為を避けること以上の意味があります。それは、前もって準備し、日常の労働をやめ、神のために時間を聖別することで

す。これは神の備えを信頼することを学ぶことであり、週を神の優先事項に合わせ、落ち着かない世界の中で神の休みを模範することです。

あなたの状況がどのようなものであれ—被雇用者であっても自営業であっても、家族の世話をしているも、複雑な環境で奉仕しているも—安息日は、産出のサイクルから離れ、神の御前にある自由へと入るための毎週の招きのままです。これらの原則を適用するとき、安息日は重荷ではなく喜び、忠誠のしるしであり力の源であることが分かるでしょう。それは、週に一度だけでなく、毎日、人生のあらゆる領域で神を信頼する心を訓練します。